

### 「企業訪問を終えて」

8月5日の午後2時、私は横浜のうだるような暑さに耐え、企業訪問への興奮を抑えながら、キリン株式会社テクノビレッジセンターへ向かいました。事前に担当の方から、私たちが迷わないように、駅からの経路をご丁寧にメールでいただいていたにもかかわらず、緊張して気分が舞い上がっていたせいか、少し迷ってしまい、約束の時間を2～3分遅れでの到着となってしまいました。少しでも遅れる旨を担当の方に連絡し、やっと目指すキリン株式会社に着くと、広大な敷地に建つ建物の大きさにとても驚き、改めて企業の研究所に来たのだと実感しました。総合案内所で受付を済ませ、テクノビレッジセンターに入り、指定されていた3階へ行こうとエレベーターに乗った時、新商品らしき物と企画書用紙を持った女性社員の方と同乗しました。ほんの数秒間でしたが、将来、このような素晴らしい環境の中で働いている自分を想像しました。

私は、将来食品を扱う企業で研究職に就きたいと考えています。こう思い始めたのは、中学生の頃からでした。「食」というのは、人が生きていくうえで、欠かせないものであり、健康状態や精神状態等を維持するうえでも、とても重要な役割を果たすものです。私は小さい頃から食べることが大好きで、少し嫌なことがあっても、好きな物を食べているときは自然と笑顔になれ、いつの間にか嫌なことも忘れていました。また、小さい頃は風邪等をひきやすく、高熱をよく出していましたが、そんな時も、食欲をなくすことはなく、よく食べる子供だったそうです。そのお陰で、治りも早かったと、よく母から聞かされてきました。「食」するということは、人の心を和ませる効果や、疲労回復・健康維持にも役立つ効果があります。私が開発した食べ物によって、誰かが笑顔になり、健康になったら、それは本当に素晴らしいことだと思うようになり、同じ志しを持った方々と、食品の研究開発をしたいと考え始めました。しかし、漠然とそう思っただけで、国の機関や企業では、どのような環境下で、どのような研究をしているのかほとんど知識がありません。ですから、今回の企業大学訪問において、実際にその職種に携わっている方々から直接お話を聞くことで、自分の今後の進路に生かしたいと思い参加することにしました。

訪問させていただく企業は、私ともう一人の同じ職種を目指す級友と一緒に選択しました。キリン株式会社を選んだ理由は、幅広く飲料分野の研究開発を行っていることと、特に紅茶の分野である、「紅茶と暮らしの研究所」の研究内容を伺いたかったからです。アポイントメントは、班長である私が取ることになりましたが、もちろん、企業にアポイントメントを取ることは初めての経験で、顔の見えない相手に、電話で上手く伝えることができるか、とても不安でした。案の定、一回目の電話では、見学は工場等のみしか行っていないとのことで、研究所等の見学は行っていないと言われてしまいましたが、私の拙い話の中からも少しでも熱意が伝わったのか、詳しいことが聞きたいので、ホームページから詳細を送ってくださいと言われてきました。そこで、私は、このチャンスを生かそうと、なぜ御社の研究所を見学したいのか、ありったけの自分の思いをメール文に込めて、送信しました。数日後、担当の方から、研究所への見学の承諾の連絡を受けた時は、とても嬉しく、夢へ少しでも近づいたような気持ちでした。

そんな想いを胸に、いよいよ担当である栗原さんと工藤さんにお会いすることとなりました。お忙しい中、私たちのために1時間という貴重な時間を割いて下さったお二人のためにも、この企業訪問を少しでも有意義なものにしたいと思う気持ちがありました。お聞きしたいことが沢山ありすぎて、質問事項をまとめるのに苦労しましたが、初めの学校説明の時も、興味深く耳を傾けていただき、また、一つ一つの質問に対しても、高校生の私たちに、分かりやすく丁寧に答えていただいたことに対して、とても有難く思いました。多くの質問の中で、特に印象深かったのが、「研究をしている中で喜びや嬉しさを感じるのはどのようなときですか。」という質問です。

この質問に対して、「自分が思った通りの結果が出れば嬉しい。」「商品化につながったときや誰かに認められたとき。」また、「成長すると自分のやりたいことが見つかり、それを達成したとき。」と答えていただきました。この時、企業で働く方々の仕事への情熱が強く伝わってきました。一通りの質問に答えていただいたあと、私たちの目の前で、説明と共に4種類の紅茶を入れていただきました。私たちの見学を受け入れるに当たり、このような実践説明を組み込んでいただいていたことに、深く感激しました。写真の左から、ダーズリン、ディンブラ、ウバ、ラブサンスーチョンです。普段よく口にする「午後の紅茶」にこの4種類の茶葉が使われているということを初めて知ることができました。それぞれの茶葉に特徴がありましたが、ラブサンスーチョンという茶葉の香りは特に独特でした。何とも言えないスモーキーな香りで、この茶葉が「午後の紅茶」のミルクティーに使われていると知り、私が好きで、いつも飲んでいる、あのミルクティーに、この茶葉の良さが生かされていることを知り、とても感動しました。また、ダーズリンにはマスカットが合う、ラブサンスーチョンにはピーナッツバターが合うなど、様々なことを私たちに教えていただきました。研究の際に行われる試飲の仕方も、体験させていただきました。私たちは普段茶葉を入れて紅茶を飲むとき、初めはかき混ぜるためにスプーンを使うと思います。そして、そのままカップに口をつけて飲むでしょう。しかし、紅茶を試飲するときは大きめのスプーンで紅茶をすくい、「ズズッ」と音を立てながら飲みます。これは、紅茶の香りが鼻から抜けていくのを感じるために行うのだそうです。企業訪問では、このような貴重な体験をさせていただきました。

私たち高校生は普段、学校の先生方以外では社会人の方と接する機会は、あまりありません。ましてや、自分が将来就きたいと思う職種の方に直接お会いし、お話しを伺うという機会は、そうそうないことだと思います。高校生のときに、このような体験ができたことは、本当に貴重なことであり、今後の進路を決めていくうえで、より具体的に進むべき道が見えてきたような気がします。今回の企業訪問に参加することで、これまで、「食」に関する研究職に就きたいと漠然と思っていたことが、そのためには、どういう大学で何を学んでいくことが必要なのかなど、より現実的に一步一步クリアしていかなければならない目標が見えてきました。もちろん、自分が入りたいと思う企業や職種に就くことは、容易いこととは思っていません。今以上に勉強を頑張らなければいけませんし、挫折することも沢山あり、自信を失いそうになることもあると思います。そんな時、私は、今回見学させていただき、体験したことを思い出しては、自分の気持ちを奮い立たせることでしょう。私たちに丁寧に対応してくださった担当の方々、そしてエレベーターで同乗した女性社員の方、私は何度だってこのような人になりたいと願うのです。

「私が研究開発した商品で、食べてくださった人々を和ませ笑顔にする」という私の夢が、現実になるかどうか、今の段階では誰にも分かりません。ですが、今回の体験を無駄にしないよう、私は自分自身を信じ、研究職への道を進んでいきたいです。

将来の私は、対応していただいた企業の方々のようになれているだろうか。自分で開発した商品で、食べた人を笑顔にしているだろうか。自分の将来を考えると、きりがありません。より現実的な夢を見させてくれた、この企業訪問を快く受けていただいたキリン株式会社の担当の方々と、ご指導いただいた先生方への感謝の気持ちを忘れずに、夢に向かって行きたいと思います。

